

D 107 ウエストベルト圧の日内変動 (その1)

共立女大家政 三野たまき 間壁治子 百田裕子 ○上田一夫

目的 成人女子は一日の生活の中で、ウエスト部を圧迫した衣服(スカート等)を比較的長時間着用している。他方、ウエスト部は食事の摂取でその容積が大きく変化すると思われるが、通常ベルト長は変化させず(ゴム等を併用して考慮してある衣服もある)そのまま装着している。このため、ベルトと人体との間に発生する衣服圧は、一日の内で変動することが予想される。そこで、先づウエスト部のレリーフがどのように変わるかを調べた。

方法 被験者は成人女子6名で、各自の月経高温期に石膏包帯法で型取りを実施した。

①期：前夜から当日朝にかけて12時間空腹後、②期：朝食(9:30、550kcal、400ml)直後、③期：朝食後2時間(12:30)、④期：昼食(14:00、700kcal、820ml)直前、⑤期：昼食直後の5回にわたり型取りした。予め、体表にウエストラインを基準として、その上・下帯を30~34コの5cm²のブロックに線引きした。①期の体表面積を基準にした、各ブロックごとの面積変化率 α (以下 α と記す)の経時変化を算出した。

結果 ②期では、ウエストラインの上方の左半身の体側~背側にかけての α が大きくなり、③期では、それが多少小さくなってウエストライン下方の腹側で大きくなった。これは、摂取した食物の一部が胃から腸へ移行したためと考えられる。また、被験者全員の α は朝・昼食ともに食後(②期・⑤期)大きくなった。しかし半数の被験者では、⑤期の α は、摂取容量が②期の2倍であったにもかかわらず、②期より小さくなった。このことから、体表面積は食事の摂取の有無によらず、日内変動することが示唆された。